



2026年1月1日着任

新井 郁也

あらい・ふみや

極端紫外光研究施設
特任専門員



2026年1月より、UVSORの特任専門員として着任いたしました、新井郁也と申します。前職ではレーザーや放電管等の実験室光源を利用した、光電子運動量顕微鏡(PMM)による物性研究を行なっておりました。今後は、UVSORの放射光光源を活かした、PMMによる研究および、施設・装置のアップグレードに貢献していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

アウトリーチ活動

分子科学研究所50周年特別企画

おかげさまで分子科学研究所は2025年4月に50周年を迎えました。創立50周年を記念して、一年を通して市民公開講座「分子科学フォーラム」および「自然科学研究機構シンポジウム」を開催しました。アーカイブ映像を公開中です。多くの皆様にご参加いただいた記念イベントの様子を、ぜひお楽しみください。

■ 分子科学フォーラム 分子研出身者および現役研究者が登場！

第1回：唯 美津木 教授「観ることで広がる触媒の世界」

第2回：岡本 裕巳 教授「『ねじれた光』で見る左と右、鏡写しの世界」

第3回：伊澤 誠一郎 准教授「分子を使った光電変換の科学」

アーカイブ視聴はこちら <https://www.ims.ac.jp/public/seminar.html>



■ 第41回 自然科学研究機構シンポジウム × 分子科学フォーラム

「元素から紐解く 宇宙と生命のものがたり」

講演「僕たちは“星屑”から生まれた？」

渡部 潤一 上席教授 (国立天文台)

講演「最古の体内時計が日の出を知らせた約22億年前のある日」

秋山 修志 教授 (分子科学研究所)

挑戦！元素クイズ

解説：長谷川 美貴 先生 (青山学院大)、中村 敏和 先生 (分子研)

詳細およびアーカイブ視聴はこちら <https://www.ims.ac.jp/sympo41/>



アウトリーチ活動

第72回岡崎市小中学校理科作品展における「未来の科学者賞」審査について

本年度10月17,18日に第72回岡崎市小中学校理科作品展が開催され、地域の小中学生による多彩な自由研究が数多く出展されました。本作品展は、日頃の理科学習の成果を広く発表する貴重な機会であり、児童・生徒の科学的探究心を育む重要な場として毎年高い水準の作品が集まっています。

未来の科学者賞は、出展された自由研究（ポスター形式）の中から、発想や着眼点の面白さや将来性などを総合的に評価して選出されるものです。選考は、岡崎3機関の職員で構成される選考委員会により、厳正かつ公平な審査のもとに行われました。どの作品にも創意工夫と熱意が込められており、限られた時間の中で審査員一同、真剣な議論を重ねながら受賞作品を決定しました。

審査を通じて拝見した作品は、生き物や自然現象に対する純粋な興味と情熱、そして自らの疑問を解き明かそうとする強い探究心をもって取り組んだことがひしひしと伝わってくるものでした。中には、研究者顔負けの長期にわたる観察記録や整理された詳細な実験ノートを付録として掲示している作品もあり、その努力と粘り強さに感銘を受けました。これらの作品は、単なる観察や実験の域を超え、科学的思考の芽生えを確かに感じさせるものでした。私は小学校部門を担当いたしました。参照した文献や記事を明確に引用して自身の考察と区別しているもの、また多数のサンプルから平均値などの統計量を算出して評価しているものなど、科学レポートとしての基本的作法をしっかりと身につけた作品も見受けられ、驚愕するとともに岡崎市の科学教育の水準の高さを実感しました。

今回の作品展を通じて、岡崎市における理科教育の充実と地域全体の学びの力を改めて実感しました。岡崎市の子どもたちがこの経験を通じてさらに科学への関心を深め、いつの日か新たな発見を生み出す研究者として羽ばたいてくれることを、心より期待しております。

(原島 崇徳 記)



「サイエンス実践塾体験研究室」の実施

2025年8月7日に、愛知県、分子科学研究所、トヨタ自動車株式会社の共同で、愛知県の高校1・2年生を対象とした「サイエンス実践塾体験研究室」が開催されました。未来のモビリティエネルギーをテーマとし、2050年を見据えた次世代電池やエネルギー変換の世界を体感するプログラムを実施しました。午前中は分子研で、電池・エネルギーに関する講義、エネルギーデバイスを扱った実験、職員や学生との座談会が行われ、昼食では一緒に語り合う時間もありました。午後にはトヨタ自動車の開発現場を訪問し、最先端の技術が社会に応用される様子を見学しました。理論と実践の両面から科学の面白さに触れられる一日となり、高校生からは「なかなか経験できないことができたので、楽しかった。知らないことばかりでこれからもっと色々なことを知りたくなった。」「仕事をしている人たちが楽しそうにしていた。」といった声が寄せられました。未来を担う若い世代が、科学の最前線で一步を踏み出す貴重な機会となりました。

(川尻 敏孝・湊 丈俊 記)

